

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部	教授	小池嘉志
最終学歴	学位	専門分野
愛知教育大学・静岡大学大学院 教育学研究科 共同 教科開発学専攻 後期博士課程 修了	博士(教育学)	算数・数学教育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「学びの魅力化」を通じて、学生一人ひとりの主体性と人生の可能性を広げる。また、学生の人生の支援者として、学業面のみならず人間形成の伴走者となり、その成長と将来を支える。

【目標】

魅力ある授業づくりのために、認知心理学の知見に基づき、授業に外化の場面を多く取り入れることを重視し、学習内容の深い理解及び知識の十分な定着を目指すよう心がける。

【方針】

- ・外化重視の授業デザイン：モデルや具体物、図示・仮説共有を頻繁に取り入れ、認知的負荷を下げながら理解を促進。
- ・学生参画型アクティブラーニング：少人数グループ討議や役割演習で「考えの見える化」を推進。
- ・メタ認知的振り返りの必須化：授業後の学習ログ提出や自己評価シート記入で、自律的学びを支援。
- ・個別フォローアップ：定期的な面談・フィードバックで、学習状況や進路相談にも対応

【計画（方法）】

- ・教師をめざす学生たちの支援のために、教育の今日的課題への理解と対策の指導、教職の意義や楽しさなどを授業の中で伝えていくようにする。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

算数、数理の世界、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、サービ斯拉ーニングⅠ、教職特講Ⅰ

（後期）

算数科教育法、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、サービ斯拉ーニングⅡ、教職特講Ⅱ

○教育方法の実践

担当科目においては、教師をめざす学生たちの支援を意識し、教育の今日的課題への理解を深めるとともに、教職の意義や魅力を実感できる授業づくりに努めた。とりわけ「算数」では、アラビア数字による十進位取り記数法が主流となっている理由について、数覚という人間の本能的側面と、人類の文化的発展の成果という側面から捉え、講義・体験・話し合いを組み合わせることによって理解を深める授業を行った。また、「算数科教育法」では、魅力的な算数授業の在り方を主題として、体験的活動、ワークショップ、模擬授業およびその振り返りを通し、理論と実践を往還しながら学びを深められるよう工夫した。

○作成した教科書・教材

各担当授業において、PowerPoint 資料、授業内容の解説資料、問題プリント等を作成し、授業に活用した。学生が学習内容を視覚的・構造的に理解しやすくなるよう配慮するとともに、基礎的事項の確認から発展的思考の促進までを見通し、授業の目的に応じた教材の工夫に努めた。

○自己評価

認知心理学の知見を踏まえ、講義・体験・話し合い・模擬授業・振り返りを組み合わせた授業実践に努めた。その結果、学生が知識を受動的に受け取るのではなく、自ら考え、表現し、理解を深める授業を概ね実現することができたと考えている。とりわけ「算数」および「算数科教育法」においては、学生による授業評価も良好であり、当初目標としていた学習内容の深い理解と主体的な学びの促進について、概ね満足 of いく成果を得ることができた。今後は、学生の多様な学習状況にさらに丁寧に対応しつつ、教材および指導方法の一層の改善に努めたい。

II 研究活動

○研究課題

ワーキングメモリが弱い子どもたちの算数・数学学習を支援する情報制御手法の開発と発見的追跡法の応用

○目標・計画

【目標】

2025 年度中に文献研究により、研究ノートをまとめる。

【計画】

内外の文献調査

○2018 年 4 月から 2026 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・2021 年 8 月 | 算数・数学の問題解決型授業における精緻化を促進する指導法 | 風間書房

（学術論文）

- ・2018 年 6 月 | 算数・数学の解法理解と精緻化に関する考察 | 『日本科学教育学会研究会研究報告』32(10), pp.41-46
- ・2018 年 11 月 | 算数・数学の学習における解法理解と精緻化に関する考察 | 『第 51 回日本数学教育学会秋期研究大会発表集録』pp.271-274
- ・2019 年 9 月 | 算数教育における発見的追跡法についての考察 | 『中部大学現代教育学研究紀要』第 13 号, pp.13-23
- ・2020 年 3 月 | 学びを深める解法の部分提示についての考察 | 『教育実践方法学研究』第 5 巻第 1 号, pp.51-63
- ・2022 年 9 月 | 算数・数学の授業における実用的な学習指導法についての考察 — 外化活動を生起させる協同学習の在り方に着目して — | 『現代教育学研究紀要』第 16 号, pp.13-24
- ・2024 年 2 月 | 多様な特性を持つ子どもたちへの効果的な算数・数学教育の在り方について | 『中部大学現代教育学部紀要』第 16 号

（学会発表）

- ・2018 年 6 月 23 日 | 算数・数学の解法理解と精緻化に関する考察 | 日本科学教育学会研究会（三重大学）

- ・2018年8月5日 | 「深い学び」を実現する授業実践 | 日本学校教育学会第33回研究大会 (東京学芸大学)
- ・2018年11月18日 | 算数・数学の学習における解法理解と精緻化に関する考察 | 第51回日本数学教育学会秋期研究大会 (岡山大学)
- ・2021年3月7日 | 算数・数学の問題解決型授業における精緻化を促進する指導法に関する研究 | 第11回教科開発学研究会 (愛知教育大学・静岡大学、オンライン)
- ・2024年8月 | 学校現場が抱える諸問題に関する考察 — タブレット端末の効果的な活用を通して — | 日本学校教育学会第38回研究大会

(特許)

該当なし

(その他)

- ・2019年11月 | 尾張旭市立旭小学校研究発表会 記念講演講師「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」 | 尾張旭市立旭小学校現職教育
- ・2019年12月 | 講演会講師「田原市中堅教員講演会『授業改善の視点』」 | 田原市野田町ふるさと教育センター
- ・2021年7月 | 講演会講師「田原市小中学校『授業力向上セミナー』」 | 赤羽根文化会館文化ホール
- ・2021年8月 | 教員免許更新講習講師「『深い学び』を実現する算数科の授業づくり」 | 中部大学
- ・2022年11月 | 日進市立竹の山小学校研究発表会 記念講演講師「『深い学び』と『外化』 — なぜ外化は学びを深めるのか —」 | 日進市立竹の山小学校
- ・2023年1月 | 稲沢市算数・数学教育研究会冬季研修会 講師「従来型授業の問題点をいかに克服するか — 算数・数学の授業における『深い学び』の実現とは —」 | 稲沢市勤労福祉会館
- ・2023年6月 | 愛知地区教職員組合季節の研修会 講師「『わかったつもり』と『教えたつもり』」 | イーセントプラザ いこまい館
- ・2026年1月 | 名古屋市学校教育研究会算数・数学部会研究大会 講師「認知心理学の視点から見た算数・数学教育」 | 名古屋市教育センター
- ・2026年3月 | 「精緻化」とは何か | 数学教育3月号 | 明治図書出版 | pp.10-13

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

科学研究費助成事業については申請を行ったが、採択には至らなかった。

○所属学会

日本教育学会、日本数学教育学会、日本科学教育学会、日本学校教育学会、
日本教育実践方法学会

○自己評価

本年度は、研究課題に基づき、内外の文献調査を中心として研究を進め、認知心理学及び学習科学の知見を踏まえた算数・数学学習支援の理論的検討を深めることができた。その成果として、著書・論文・学会発表の蓄積に加え、明治図書出版『数学教育』への原稿掲載および名古屋市学校教育研究会算数・数学部会研究大会での講演を通して、研究成果を公表し教育現場へ還元することができた。全体として、研究は概ね着実に進展し、所期の目標に対しておおむね満足のいく成果を得ることができたと考える。今後は、理論研究をさらに深めるとともに、授業実践や実地調査へと研

究を発展させていきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

学部全体の教育環境向上に寄与する

【計画】

オープンキャンパスや SNS を通して、教育学部の魅力を発信する。

○学内委員等

入試問題作成委員会委員、研究活動委員会委員、研究倫理委員会委員として、各種委員会活動に従事した。

○自己評価

入試問題作成委員会、研究活動委員会、研究倫理委員会の各委員として委員会活動に積極的に参加し、大学運営に一定の寄与を果たすことができた。とりわけ、入試、研究推進、研究倫理はどれも大学の教育研究活動を支える重要な基盤であり、それぞれの委員会活動を通して学部全体の教育研究環境の向上に努めた。

また、広報活動の面では、高大連携事業における模擬授業や、高校での PR 活動における学部説明を行うなど、本学および本学科の魅力発信に努めた。こうした活動を通して、大学および学部の教育内容への理解促進に一定の貢献ができたと考えている。今後も委員会活動と広報活動の両面から、大学運営の充実に誠実に取り組んでいきたい。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

尾張旭市・日進市内小学校におけるスーパーバイザー活動を継続し、教師研修を支援する

【計画】

公開授業の指導助言および研修会における講演を行う

○学会活動等

日本教育学会、日本数学教育学会、日本科学教育学会、日本学校教育学会、日本教育実践方法学会に所属している。とりわけ今年度は、日本学校教育学会研究大会において本学が会場となったことに伴い、実行副委員長として大会運営に寄与した。また、日本教育実践方法学会においては、研究論文の査読委員として継続的に研究活動の発展に貢献している。

○地域連携・社会貢献等

2025 年度は、尾張旭市立旭小学校及び尾張旭市立本地原小学校における現職教育のスーパーバイザーを務め、両校の研究活動を補助・指導した。研究授業に対する指導助言や、研修会における講演を通して、授業改善および校内研究の推進を支援した。学校現場における教員研修の充実に寄与するとともに、地域の教育力向上に貢献することができた。

○自己評価

今年度は、尾張旭市立旭小学校及び尾張旭市立本地原小学校におけるスーパーバイザー活動を通して、公開授業の指導助言や研修会講師として学校現場の研究活動を支援し、地域の教育実践の向上に一定の貢献を果たすことができた。また、学会活動においても、日本学校教育学会研究大会で

は実行副委員長として大会運営に携わり、日本教育実践方法学会では査読委員として継続的に研究活動を支えることができた。全体として、社会貢献の面でも概ね積極的に役割を果たすことができたと考えている。今後も、学校現場及び学会活動の両面から教育研究の発展に寄与していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

所属の学会活動に積極的に参加し、常に最新の情報を得、学生の教育に生かしていく

VI 総括

本年度は、教育、研究、大学運営、社会貢献の各側面において、概ね着実に取り組むことができた。教育面では、認知心理学の知見を踏まえ、講義・体験・話し合い・模擬授業・振り返りを組み合わせた授業実践に努め、学生が主体的に考え、理解を深める授業づくりを進めることができた。とりわけ「算数」及び「算数科教育法」においては、学生による授業評価も良好であり、当初目標としていた学習内容の深い理解と主体的な学びの促進について、概ね満足のいく成果を得ることができた。

研究面では、研究課題に基づき、主として文献研究を通して理論的基盤の整理と深化を図ることができた。その成果として、著書・学術論文・学会発表の蓄積に加え、教育雑誌への寄稿や研究大会での講演を通して、研究成果を学術的・実践的な両面から公表し、教育現場へ還元することができた。今後は、理論研究をさらに深めるとともに、実地調査や授業実践へと研究を発展させていく必要がある。

大学運営の面では、各種委員会活動に積極的に参加し、入試、研究推進、研究倫理の各側面から大学運営に寄与することができた。また、高大連携事業における模擬授業や高校での広報活動を通して、本学及び本学科の魅力発信にも努めた。

社会貢献の面では、尾張旭市立旭小学校及び尾張旭市立本地原小学校におけるスーパーバイザー活動、現職教育における講演や指導助言、さらに学会活動を通して、学校現場及び教育研究の発展に寄与することができた。地域の教育実践に研究成果を還元するとともに、学会運営や査読活動を通して学術的な貢献も果たすことができた。

以上のように、本年度はそれぞれの領域において概ね誠実に職責を果たすことができたと考えている。今後も、教育実践、研究、大学運営、社会貢献を相互に結びつけながら、より一層充実した教育研究活動に努めていきたい。

以 上